共生社会を実現するための，地域住民の障がいがある人とのかかわり方に関する考察

社会福祉学専攻　伊藤　謙一

要　旨

地域住民と障がいがある人のかかわる機会は近年増してきている．地域共生社会の実現に向け障がいがある人達は，自分達が暮らす地域で様々な支援を受け自立を目指して暮らしている．しかし，時には過剰な支援を受け，時には心配のあまり大事にされすぎて，図らずともパワレスの状態に陥ることもあった．しかし，家族を含める地域住民とのかかわりの中，エンパワメントされ，様々な権利が守られる結果となっている過程が，事例より確認できた．

このことより，事例の概要及びかかわりの過程を整理し，その結果どのようなかかわりがあったのかをまとめた．かかわりの過程において家族を含めた地域住民が専門的な用語や技術を用いなくとも，障がいがある人達とかかわりを持ち，その中で，時にパワレスな状態に陥っている障がいがある人達が，エンパワメントすることや，障がいを理由に抑圧されていた状況から社会参加へつながった過程などを検証した．

また，そのかかわりの過程では，地域住民が日常的に用いている言葉を使い，自然な接し方をしたとしても，円滑なかかわりを持つことができていた．このように，障がいがある人に自然な態度で寄り添い声をかけることで，ストレングに作用し，エンパワメントすることにつながっていることが確認できた．さらに，これらの過程を通して起こった変化は，障がいがある人達の様々な権利を守ることにつながっていた．

これらの事例からそれぞれ代表性を定め，地域住民の視点からかかわりを持った結果として，表れた変化の過程を検証した．そのうえで，障がいがある人の変化の過程を踏まえて，これからの地域社会において，地域住民の障がいがある人へのかかわり方として，どのような視点を持つことが大切であるか，またその際にどのようなかかわり方を行っていたのかを確認しつつ考察を行った．

その結果，地域住民は専門的な用語や技術を用いなくとも，障がいがある人達との間に良好な関係を築き，そのかかわりの過程において，障がいがある人に寄り添い声をかけることでも，ストレングに作用しエンパワメントすることにつながることを確認できた．

また，このことは，同時に，障がいがある人の権利を守ることにつながり，地域共生社会における地域住民と障がいがある人とのかかわり方について，一つの手がかりとなりうるとの結論に至った．